

隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

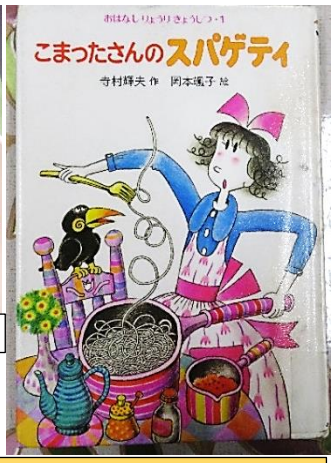
隈府小学校
学校だより No.24
文責 芹川博文
10月30日（金）

毎日の給食に込められた思い
～ 読書と食育のコラボ　今週は「絵本献立」メニューでした～

今週は、読書と食育のコラボで、「絵本献立」メニューでした。食事は生活の基盤です。毎日の学校給食も、美味しさ、栄養、かむ力、色合いに加え、エネルギー（カロリー）や経済面も含めて献立を立てていただいており、私からすると気の遠くなるような仕事です。加えて、業者、生産者の方との打ち合わせ、調理員さんとの連携をとられているのが、本校栄養教諭の村上 千扇 先生です。


「こまったさんのスパゲティボロネーゼ」

給食の時間には、子どもたちの様子を見たり、お話をしたりして各教室を回られます。出来上がった給食を子どもたちが食べる様子を見るその姿には、村上先生の熱い思いと願いが伝わってきます。



読書週間に食に関心を持ってほしいと思い、今回８冊用意しました。「こまったさんのスパゲティ」は、その中の一冊です。この本は、私が小学生の時に読んだ本でもあります。子どもたちの中にも知っている人が多いと思い、給食のメニューにしてみました。

今回の「こまったさんのスパゲティ」には、本と同じくセロリを入れました。実はピーマンやパプリカもけっこう沢山入っていましたが、小さく切って、早い段階から炒めてなじませることで、苦みやえぐみが飛んでいきます。

是非、子どもたちに、図書室で「絵本献立」の本を手に取ってほしいと思います。

栄養教諭　　村上 千扇

ちなみに、私が本で思い出した食べ物は、我が子が小さい時に読み聞かせした「ぐりとぐら」に出てくるパンケーキ（ホットケーキ）です。絵本ならではの想像力が働き、どこまでも美味しく思えてきます。絵本献立を通して、「食べること」をもっと大切にしたいと感じました。

「つながること」「本音で語り合えるなかま」の大切さ
～ 熊本県人権子ども集会に 隈府小代表として参加した２名の言葉から ～

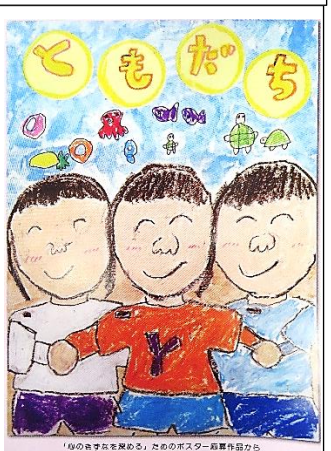
先週末、熊本県人権子ども集会が熊本城ホールで開かれ、代表として児童会役員の５年生２名が参加しました。事前と事後に校長室で話を聞きましたが、特に参加後の感想で、「つながること」の大切さ、「本音で語り合えること」の大切さを語ってくれた姿が印象的でした。彼らが感じた思いを学校全体に広げてほしいと強く思います。

発表を聞いて、障がいや水俣病など、色々なことがあるけれど、人を大切にし、つながっていくことが大事だと思いました。

５年　・田 心暖 さん

本音で語り合えるなかまの大切さを知ることができたし、そうしたなかまをつくり、大切にしていこうと思いました。

５年　中津 悠馬 さん



隈府小は、「明日が楽しみな学校」を目指しています。その土台の一つが人権教育であり、一人一人の人権感覚を育むことが大切です。その感覚は、大人になっても活かされると信じます。

昨今の SNS での誹謗中傷、フェイクニュース、そしてサイバー攻撃の報道に心が痛みます。学校教育に携わる者の一人として、「誰しも小学生、中学生の頃があったはず」と思ってしまいます。そして、目の前の子どもたちに、確かな人権感覚を持ってほしいと切に願うとともに、学校教育の責任の重さを感じます。家庭、地域、行政とも力を合わせ、「明日が楽しみな学校」を目指します。